慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	恐慌の原因
Sub Title	Economic crisis
Author	イングランド夫人
Publisher	三田学会
Publication year	1913
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.4 (1913. 10) ,p.752(130)- 762(140)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19131022-0130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

恐慌の原因

イングランド夫人

イングランド夫人は米國ネブラスカ州立大學の講師にして同國屈指の女流經濟學者なり。夫人は殊に恐慌の研究を以て知らる。本年四月發行のJournal of Political Economy所載の一論文 Economic Crisis は夫人の筆に成るものにして其議論多少徹底せざる所なきに非ざるも、概して穩健有益なる文字なり。依て之が梗概を茲に紹介せんと欲す。原文には多くの脚註を附したれども、茲には其大部分を省略せり。(ST)

恐慌の原因として人の指摘せるもの實に枚擧に遑あらず。殊に恐慌の結果をば恐慌の原因と看做す論者さへあり。又他の論者にして恐慌の一原因を以て恐慌の唯一の原因なりと論じ、此原因に劣らざるか或るは之よりも重大なる原因を無視するものあり。更に他の論者は恐慌なるものが頗る複雜なる現象にして其原因と看做す可きもの少からざるを認むれども、各其原因の輕重に就きては意見を異にせり。要するに、恐慌の原因と看做されたるものは其數既に尠からざるを以て、此上に吾人は恐慌に關する新說を求むることを爲さずして、在來の各學說が如何なる程度迄眞理なるものなるを討究し（大多數の恐慌論は各々多少科學的根據を有するものゝ如し）、而して然る後恐慌の原因と看做す可き各事情が恐慌を誘致する上に於て如何程重要なる地位を占むるものなるやを講究せざる可からず此研究を遂げたる上にて恐慌に關する在來の學說の長短を取捨して一個の綜合的學說を立つることを得可し。序に云ふ、若し恐慌に關して說を立つる者が曖昧なる用語又は不完全なる定義を用ゆるものを避けたりしならば、吾人は恐慌に關して斯く迄も多くの異說を聞くが如きことあらざりしなる可し。

下文に於て論ずる恐慌說は簡明を主とし、各論點に對して充分なる論證を加ふることを敢て

せざる可し。若し史實を引證せば、論文を法外に膨脹せしむるに至る可ければなり。本篇に於て開陳せる學說は恐慌を綿密に研鑽したる結果として到着せる結論の摘要とも看做す可きものなりとす。斯くの如く、結論の摘要のみを披瀝するとも讀者をして首肯せしむること能はざる可れども、或は多少の暗示を與ふることを得可し。本篇に於て用ゐたる論證以外の證明に就きては各其箇所に於て筆者の是迄に發表せる恐慌に關する論文を引照せられんことを附記せり。加之、現時筆者の準備しつゝある數篇の論文に於て此問題を更に詳論せんと欲す。

抑も產業的恐慌とは多くの債務者が債務を償却す可き時に之を償却することを能はざるときの狀態を云ふ。此種の恐慌の前後に又は之と同時に貨物の需用は激減するを常とす。今假りに推理の便宜上金融界の現象と產業界の現象とを分離して之を講究するとせば、金融界の恐慌は多くの債務者が其債務を辨償するを得ざるの狀態を云ひ、此種に屬する恐慌の强度は破產者の數其地理的分布並に其債務總額に依りて之を知ることを得可し。之に反して產業的恐慌の特徵は貨物需用の激減にして、其强度は物價下落の程度を以て之を知ることを得可し。(註)

註、ジヤグラー氏曰く、恐慌とは物價の下落を云ふと。然りと雖も、物價の下落は恐慌の原因と云ふよりも寧ろ其一結果なり。尤も物價の下落は種々の模樣換を餘儀なくせしめ、從つて或は若干の破產を誘致することある可し。

先づ產業の浮沈より來る可き產業上の恐慌の發生する徑路を論せんに、此種の恐慌の發生する前に吾人の目擊する好景氣は貨物需要の增加に因づくものなり。而して貨物需用の增加は主として企業の膨脹卽ち既設の事業を擴張し或は又新事業を開始する爲めに要する資本財の需用に依りて誘致せられたるものなりとす。されど不幸にして吾人は新事業又は既設事業擴張に關する統計を有せず。尤も哩數にて計算せる鐵道

建設に關する頗る浩瀚なる統計の存するありて毎年度に於ける鐵道材料の需用額を比較研究すること得るも、他の多くの產業に就きては斯かる精密なる統計を得ること能はざるなり。各種の事業經營の爲めに用ゆる資本財の需用總額に關して吾人の入手し能ふ最上の標準は、新たに設立せられたる會社の株式並に社債なりとす。英國に於ては資金の需用額に關する多年間の統計の存するありて、米國に於ても近來此種の統計を編纂するに至りたり。(註一) 好景氣の季節に於ける此資金の需用は頗る莫大なり。例へば英國に於ては、千八百七十三年の恐慌前に資金の增加は五十三割に上り、千八百八十三年の恐慌前には三十三割九分に上り、千八百九十年の恐慌前には稍少なく十六割五分、千九百年の恐慌前には二十三割六分に上りたり。而して此等新會社の要ずる貨物の需用は其貨物の價格を騰貴せしめ、價格の騰貴は生產者の利潤を增加し

且つ生產を刺戟するの作用を有す。(註二) 此貨物需用の增加は頗る重大なる結果を誘致するものなるを以て、企業勃興と好景氣とを同物なりと云ふも、敢て誣言に非ざる可し。斯くの如く企業の勃興は持續財の需用を增加するのみならず、又一方に於ては消費財の需用をも增加せしむるものなりとす。如何となれば好景氣には必ずや生活程度の昂進の之に伴ふものなればなりさはれ、消費財需用の增加は貨物の總需用額をも增加するは勿論なりと雖も、是れは好景氣の原因としてよりも寧ろ其結果と看做す可きものなり。要するに、產業界の好景氣は新事業の開拓に要する資本財需用の增加に依りて誘致せらるゝものにして、產業界の不景氣は之と正反對に資本財需用の減退の釀せるものなりとす。(註三) 物價は資本財の需用が減退せざる間は依然として騰貴す可し。之に反して企業勃興にして頓挫せば、貨物の需用は減退し、從つて他の事

情にして變化なしとせば、物價は下落す可し。

註一、千九百五年より千九百十二年迄に合衆國に於て發行せられたる新株式社債は、バブソン氏の報告に依れば、左の如し。

年	弗
一九〇五	一、二三八、九七八、〇〇〇
一九〇六	一、六三七、〇一三、三五〇
一九〇七	一、三九三、九一三、三〇〇
一九〇八	一、四二三、一九九、三七一
一九〇九	一、六八一、六二〇、六八〇
一九一〇	一、五一八、二七二、五七九
一九一一	一、七三九、四八七、七二〇
一九一二	二、二五三、五八七、二九六

註二、例へば、千九百年の恐慌前に於ける好景氣時代に露西亞は盛んに鐵道を施設しけるが、同國の製鐵所は莫大なる配當金を支拂へり。一例を擧ぐれば、サウスドニープロウ製鐵所は五年間に十七割の配當を支拂ひたり。

註三、ハル氏曰く(Industrial Depressions, p.140)吾人が繁昌と名くるものは殆んど悉く工事の一時的激增の誘致せるものにして、吾人が產業の衰微と稱するものは殆んど皆工事の激減の釀せるものなりと。蓋し至言と謂ふ可し、然りと雖も、數箇月又は數箇年に亘りて繼續し、延ひて好景氣を釀生せし企業の勃興が何故に頓挫するに至るものなるやは是れ吾人の知らんと欲する所にして、此問題をだに解決せば、吾人は恐慌の原因を闡明することを得るものなりとす。產業繁盛の原因を說明するは比較的難事に非ざるも、產業の衰微に關して事實と一致せる學說を立つるは頗る困難にして、從つて其原因は猶ほ經濟學の未決問題たるなり。(註一) 然りと雖も、若し企業勃興と好景氣とを殆んど同一物と看做さば、好景氣なる言葉と共に聯想せらるゝ幾多の稍々曖昧なる觀念は多少明確となり、從つて好景氣を阻止せしむるの原因を一層確的に說明するを得可し。筆者の信ずる所に據れば好景氣は左記三個の原因の一若しくは三個の原因全體又は其一部分に依りて誘致せらるるものなりとす。

註一、イリー教授曰く(Outlines of Economics p. 267)或る1

恐慌の總ての原因を分解討究するは困難なるのみならず時としては不可能なるが、何れの恐慌にも適用し得る恐慌に關する學說を立つるは猶ほ一層困難なりと。

一　企業の勃興は企業家が最早夫れ以上に企業上の危險を冒すことを欲せざるが爲めに頓挫することある可し。新企業には必ず一大危險の伴ふ可きものなるは疑ふ可らず。如何となれば、新事業が果して利益の有るものなるや否やは之を試みたる上ならでは知ることを得ず、且つ一旦其事業が失敗に歸したる後は最早投入せる資本を回收することを得ざるを以て也。されば、非常に投機的なる事業に對して資本家が投入するを辭せざる資本額には從つて一定の限度あり。然りと雖も新事業の發起人は此限度に何等の注意を拂はずして種々の企業を計畫し、遂に株式債券等の賣口の悪しく爲りたるを見て始めて株式債券の供給の過多なりしを悟るに至るなり。是れ株式取引市場に於て屢々目擊する現象なりとす。(註一)斯くの如く好景氣が變じて不景氣と爲ることは貨幣制度の良否、利潤の增減、利子歩合の高低、關稅の增減若しくは其他通常恐慌又は不景氣の原因と看做さるゝ現象と何等の關係を有せざる也。

註一、ギブソン氏は千九百〇三年の不景氣に就きて、曰く、(Cycles of Speculation) 千九百〇三年に於ける鐵道公稱資本の增加率は一割四分に上りたるが、其以前七ケ年の平均增加率は六分に過ぎざりき。加之、產業會社の公稱資本が同年に於て激增せることに想到せば、株式の供給過多卽ち有價證券の持腐が不景氣の誘致を助けたるものの如く思はるゝ節ありとす。

二　企業の勃興は銀行が最早資本幷に支拂準備との關係上貸出し得る丈けの資金を貸出し盡したるを以て夫れ以上を貸附を爲すことを拒絕せるが爲めに、頓挫することある可し。銀行を茲に特に擧げたるは銀行が企業資金の唯一の供給者に非ずとするも少くとも主なる

供給者なるを以て也。若し斯の如く總ての遊金を悉く使用したる後は外國より資金の供給を仰ぐに非ざれば、新企業を中止して貨物需用の減退に次で必ず發生す可き不景氣を座して待つより外に何等手段の採る可き者なし。

三　企業勃興は企業界の將來に對する不安の念の爲めに頓挫することある可し。此不安の念は種々なる原因の結果として發生す可し。一例を擧ぐれば、總ての投資の利益、殊に新事業の利益が保證又は豫期せられたるよりも少額なるの事實より企業に對する不安の念を釀すことあり。企業の利益が投入資本の割合には少額ならざるも、若し資本を投入せし者が期待せし額に達せざることあらば、企業熱が夫れが爲めに冷却することあり。又企業は多くの事業の利益が思はしからざるが爲めに振はざるに至ることある可し。此場合に於ては投入せられたる資本が浪費せられると同樣なりとの考へを與ふることあり。又事業の成績が急に擧がらざるの理由の爲めに、資本主が落膽することもあり。新企業が又火事、地震洪水等の如き損害の爲めに頓挫するに至ることある可し。或は又產業の爲めに不利益なる法律が制定せらるゝか若しくは其制定が豫期せらるゝときに企業が振はざることある可し又企業の減退は企業家が高率の利子歩合を支拂ふことを欲せざるの結果として誘致せらるゝことあり。企業は又金融界の恐慌中に於けるが如く信用が收縮するか或は又其收縮の懸念の生じたるが爲めに不振となることある可し。銀行が企業の將來に對して悲觀せるの結果として銀行が企業家及び事業の發起人に貸附を拒絕するの狀態は銀行の手控として知らるゝの現象なり。銀行が斯くの如く手控するは金融界の恐慌前に於ける狀態の特徵なる貸附の繼續又は長期貸付に對する要求が餘りに

頻繁なりしが故にして相當なる根據を有するものなりと謂つ可し。

企業の將來に關する不安の念が相當の理由あるものにせよ、將た又何等の理由なきものにせよ、其結果は下記の一點に於て一致す可し。即ち、新企業は止み實業界は不景氣となる可し。されど、若し將來に對する不安の念が何等の理由なかりしものなることを發見せば、不景氣は永續せず、企業は再び間も無く盛んと爲る可きに反し、若し其不安の念には確かなる理由の存さるものなりとせば、破產者の整理が片付く迄企業は再び盛んと爲らざる可し。

之に反して、金融界の恐慌——多くの債務者が債務辨濟の時期に支拂不可能となれることー—は主として產業及び金融業の利益が借入又は支出の根據たりし豫想利潤程大ならざりしが爲めに誘致せらるゝものにして、且つ又信用の收縮に依りても多少助勢せらることあり。此信用の收縮が如何なる原因に基くを問はず、是れが爲めに多くの破產者を出すの結果を呈す可し。如何となれば、豫期せる通りに資金を借入るゝこと能はざるときには、事業の計畫を破壞せらるゝを以て也。されば、金融恐慌の發生せる場合には、債務を辨濟するに充分なる資產を有せる會社商會等の破產者をば如何にして防止す可きやは一大問題たるなり。然りと雖も、代表的金融恐慌中に於て發生する破產の主なるものは往々人の主張せるが如く、貸出の緊縮又は高率なる利子步合の爲めに誘致せられずして、恐慌前の好景氣の際に損失を蒙れるが爲めに誘致せられたる也。換言すれば、假りに信用及び貨幣制度が完全にして、此制度の不備の爲めに債務相當の資產を有する者をして破產せしむるが如きことなしとするも、猶ほ債務に相當せる資產を有せざる者が破產することある可し。斯かる破產者の事業を整理して經費を節減し以て有利

的事業たらしむるか、或は又相當の配當を爲し得る樣に公稱資本を減額せしむるは社會の公益なりとす。

玆に到りて吾人の聞かんと欲する所は何が故に屢々破產者を出すに至るやに在り。利潤を豫期通りに收むることを得ざるは勿論種々の原因に依る可し。一例を擧ぐれば、實業家の豫想が不作、火事、地震、暴風雨等の如き天災地變に因づく生產の激減の爲めに大に外れることあり。損失は又戰爭、入寇、革命及び政府の政策の變更等に依りて誘致せらるゝことあり。株式及び商品又は不動產の投機賣買に依りて暴利を貪ぼることを得ると同時に、之に依りて大損害を蒙ることあり。株式取引所に於て價格が暴騰せるの結果として法外なる利益を攫得せんことを希望せしが爲めに失敗することあり。株式の價格は理論上會社の利益の增減に比例して騰落す可きものなるも、株式の價格は又豫期せられたる將來の利益の爲めに左右さらるゝものなりとす。好景氣時代には萬事を樂觀せるの結果として、株式の價格をば現今の利益と何等の交涉を有せざる高値に躍上ることあるのみならず、早晩此高値が將來に於ける利益とも何等の交涉を有せざるものなるを發見するに至るなり。而して、株式は種々の階級に屬する人の手に在るものなるを以て、配當が豫期せられたるよりも低率なる場合に株主の蒙る損害は社會一般に其影響を及ぼすなり。斯く云ばとて株主は實際に損失を蒙りたるにはあらで、單に豫期せられたるよりも少額なりと云ふに止まるなり。

又上記の原因以外の事情の爲めに產業の利潤が豫期に反することあり。例へば、好景氣の季節に於て或る製造業者が貨物の生產額を激增せる爲めか、或は需要が減少せるの結果として生產過多に苦しむことあり。又時としては、貨物の需要は盛んなるも、需要を滿たすに足る丈け

の貨物量を產出することを得ざるが爲めに、豫期通りの利潤を收むるを得ざることあり。(註)

註　此一適例は鑛山業なり。

生產過多、生產過少等の問題が重視せらるゝは玆に贅言するの要なき所なるも、筆者の觀る所に據れば、生產費の不均一なる增加は之よりも一層重大なる問題なりとす。例へば、或る製造業に於ける生產費が僅かに一割の增加を來たしたるのみなるにも拘らず、他の製造業に於ける生產費が五割の增加を來たすことあり。若し此際に後者が其生產貨物の價格を五割方引上げんか、其貨物に對する需要は他に遷るに至る可し。(但し、此貨物が必需品にして他に何等の代用の存せざる場合を除く)。されば、最も高率なる生產費を要する產業の利潤は減少し、最も低率なる生產費を要する產業の利潤は增加するに至る可し。

然り而して、斯かる狀態は之を豫知することを得ざるものなるを以て、從つて之を豫防することを得ざるなり。然りと雖も、此狀態を目して普通の意味に於ける生產界の混亂又は需給の不調和と爲すことを得ず。如何となれば、上記の現象は一事業の計畫せらるゝ度毎に必ず發生す可きものなればなり。或る一事業が企圖せらるゝや、種々なる原料を要求す可きも、其需要の程度は原料の種類に依りて同一ならず。從つて原料品の價格は騰貴す可きも、其騰貴の程度は一定せざる可し。一例を擧ぐれば石炭幷に鐵を比較的多く消費せる產業の生產費が激增しつゝあるにも拘らず、此等の原料品を格別に多く消費せざる產業の生產費が單に少しく增加せるに止まることあり。

此外、賃銀、地代、利子步合及び其他種々生產費として仕拂はるゝものが不均一に增加することあるものなるを以て、總て產業は、其性質の新舊を問はず、益々投機的色彩を帶びつゝあり。此投機的性質に伴ふ危險は取りも直さず社會の物質的進步を可能ならしむる唯一の手段なる企業に對して吾人の支拂ふ代價に外ならず。されば、企業の勃興が驀て多くの企業家に累を及ぼし、其企業家が種々無理算段を試みたるの結果、遂に彼等をして債務の辨濟に堪へ能はざることを自白せしむるに至ることあるは怪しむるに足らざる也。然かも、彼等は彼等の破產が手腕の足らざるが爲めならずして、彼等の力に及ばざる事情に因づくものなることを自覺するに至るなり。

因是觀之、恐慌は單に一部の生產業者が價格の引上を以て生產費の增加に伴ふ損失を償ふこと能はざるの事情のみに依りて誘致せらるゝことあるものなりとす。此場合に於て、貨物の產額に增減なく又需用量も從前の價格にて販賣せば損失を免ること能はざるなり。而かも、價格の騰貴は需要の減少を來たし、需要の減少は利潤の減退を誘致するを奈何せん。

玆に論ずる狀態は普通の生產過多說、卽ち生產費は概して既製品の價格騰貴の程度以下に增加するの傾向ありとの學說を唱ふる者が假定せる狀態と全く異りたるものなりとす。企業の盛なる季節に於て貨物の一般的需要が平均二割五分增加し、生產費は平均一割の增加を來たしたるに過ぎざることある可し。されど、上述の如く、或る產業に於ける生產費の增加が他の產業費に於ける生產費の增加よりも著しきことあるを以て常態となすが故に、生產費の增加せる貨物に對する需要は比較的減少し、從つて其生產者の利潤は減退するに反し、他の貨物生產者の利潤は增加するに至るものなりとす。されば、各產業の利潤が一般に減退するは恐慌前のことに非ずして企業頓挫の一結果として恐慌後に發生する現象なりとす。

されば、物價の騰貴は生產業者の豫算を狂は

し、延ひて多くの種類の產業に於ける利潤を減退せしめ、其結果として企業界の前途に對する不安の念を釀生せしむるに至るものなりとす。而して此不安の念程新勃興を阻止し、從つて一般に實業界の活氣を阻喪せしむるものは他に存せざるなり。

普通恐慌前に於ける產業隆盛の時代には上文に列擧せる實業上の豫算を破壞する影響を有する總ての事情は殆んど悉く實在せり。之が爲めに、恐慌を誘致する原因は頗る複雜にして、從つて甲の論者はAを以て恐慌の原因なりとし、乙の論者はBを以て其原因なりと主張するに至れるなり。尤も、此等種々の原因の輕重は恐慌に依りて異れり。例へば、和蘭に於ける千六百三十六年の恐慌は主として鬱金香の投機賣買の誘致せるものなり。又蘇國に於ける千七百〇一年の恐慌は生產過少——卽ちダリエン殖民事業の爲めに資本を浪費せし結果なり。之に反して、英國に於ける千七百〇七年、千七百十七年及び千七百四十五年の恐慌は政治的原因の誘致せるものなり。又千九百三年に於ける合衆國の恐慌は取引所に於ける投機に因づけり。然りと雖も、他の普通の恐慌を誘致せる種々なる原因に就きて其輕重を論ずるは容易の業に非ざるなり。

日本中世經濟史料

松本彥次郎

日本經濟史は寧樂朝までは史料も一通り出版されてをり正倉院、石淸水八幡、高野山の文書など皆大日本史料の古文書の部に出版され、たゞ重要なる東寺百合文書の殘るのみである。殊に篤學栗田博士は大凡經濟史に役に立つやうに之を纏めてあり、新見學士の最も正確なる研究も發表せられ、古事類苑の如き多少粗漏の嫌あるけれども此時代は比較的詳細であるから史料の缺乏を慨く必要はない。福田博士は日本經濟史論を訂正しつゝあり。川上(多助)文學士は一層詳密に古人の研究を補綴し新しき方面に向つひつあるから寧樂朝前後のことは憂うるに足らぬ。平安朝は鎌倉時代に整理された一種の封建制の萌芽であり、これが發達であり、殊に莊園の研究は栗田博士福田博士芝學士などのもの大略ながら發表せられてゐる、多少雲を捉む如き事もあるけれども朧ながら何等か暗示は與へられてゐる。所が鎌倉時代になれば星野黑板兩博士の守護地頭の論文が發表せられてある計り、これとて經濟よりも制度に重きを置きすぎた傾があるのみである。前二回に亙て室町時代の史料の一端を紹介したけれども鎌倉時代に關する經濟史の研究では福田博士の坐があり。數年前國家學會雜誌で信用に關する文書によりし論文のみで鎌倉全般に亙つては經濟史的の方面は微々たるものである。吾妻鏡の如き古來よくよまれた史料すら經濟史に應用された部分は極めて小部分であり。橫井博士の商業史をみても此書の引用は案外少ないのに驚いた。玉葉、山槐記、明月記、臺記、吾妻鏡、愚管鈔など比較的浩翰なものゝ中より例によつて紹介することゝした。平安朝鎌倉時代なる時代區別の如きは賴朝の鎌倉